

令和4年度事業報告書

4年度事業のポイント

➤ 統合した両団体の特徴を踏まえた組織再編

尼崎中高年事業(株)「以下、「会社」という。」の緑化部門との事業統合から1年を経た令和4年度は、これまで「協会」が推進してきた緑化普及啓発と、「会社」が培ってきた緑化作業のノウハウをより活かせる実効性のある組織体制に再編し、各種事業のブラッシュアップを図った。

➤ 緑化普及啓発事業の拡充

会社との事業統合により拡大した、収益事業から得る利益を活用した緑化普及啓発事業の内容を拡充し、新たな参加者を掘り起こして、すそ野を広げる事業を展開した。

新たなプログラムとしては、温室建設50周年を記念して開催した奄美大島をテーマにしたイベント、緑化普及啓発に国際交流の要素を加えた講習会「世界の植物と暮らし」シリーズ、毎月1回の定期開催で、1日を通していつでも参加することができる「草木あそび塾」などを企画・実施した。

加えて、公園内にとどまらず、各地区生涯学習プラザなどに出向いての緑化教室や、仕事帰りに参加できる時間帯での園芸教室等、場所や時間帯を広げて開催することにもチャレンジした。

➤ 緑の情報発信の充実・強化


職員自らが、名所の選定から写真撮影、紙面構成までを行い、およそ1年の期間を掛けて制作した「あまがさき桜マップ～駅からめぐるサクラの名所100選～」は、各種日刊紙にも取り上げられ、尼崎の魅力発信に大きな成果を上げた。

また、子育てファミリー世帯への情報発信に向けて、かねてからの重点強化ポイントになっていたSNSの活用については、主要なソーシャルメディアであるフェイスブック、インスタグラムの利用を開始し、若年層をターゲットにした情報発信を進めた。




【事業活動部門】

◆ 公益目的事業

 … 中高年からの移管

I 公益1事業〔定款事業(1)〕

 … 新規・見直し事業

(緑化普及啓発フィールド公園などを活用した普及啓発、利用促進並びに都市環境緑化の推進事業)

《管理施設》

・緑化普及啓発フィールド公園

名 称	フィールドの特徴
上坂部西公園 (尼崎市都市緑化植物園)	都市緑化植物園；花と緑の学習空間
元浜緑地	キッズランド；子ども達の遊びと学び
大井戸公園	ローズガーデン；バラを通じてのボランティア活動空間
近松公園	日本庭園風公園；植物と文化の歴史空間
宮内公園	梅と茶室のある公園；観梅茶会
中央公園西側芝生広場	花と緑の魅力発信空間；市内外への魅力発信の場
祇園橋緑地	緑の散歩道
蓬川緑地バラ園	川岸のバラ園

・その他の公園緑地

名 称	フィールドの特徴
西武庫公園	サクラ、分区園、利用団体のネットワーク
県立尼崎の森中央緑地	参画と協働による生物多様性の森づくり

1 緑の相談所及び緑化普及啓発フィールド公園事業

(1) フィールド公園の魅力向上の取り組み

① 温室建設 50 周年記念 奄美関連イベント「奄美ウィーク」の開催

温室建設 50 周年を記念した奄美の植物を知るイベントを、6 月 10 日から 6 月 19 日まで上坂部西公園（尼崎市都市緑化植物園）で開催した。

温室が整備された 1972 年に、鹿児島県の旧名瀬市（現奄美市）からガジュマルやソテツなど、コンテナいっぱい南国植物が寄贈されて以来続いている奄美市と本市の友好関係をテーマにした企画で、昨年、世界遺産に登録された奄美群島の植物を紹介する植物展示や写真展、奄美とオンラインで繋いだ講習会、奄美出身者有志による三線の演奏や踊り、郷土菓子の販売などのイベントを開催した。

・奄美ウィーク事業一覧表

開催日	事業名	開催場所	来場者数	内 容
6/10～ 6/19	奄美～島を彩る植物展	温室	1,273名	ガジュマルなどの奄美の植物のほか、熱帯果樹のマンゴーや島野菜の島ラッキョウなどを展示
6/10～ 6/14	平城達哉氏写真展 「希少植物でめぐる奄美群島の四季」	展示施設	557名	平城達哉氏（奄美博物館学芸員）が撮影した世界自然遺産に登録された奄美の希少な動植物の写真を展示
6/11 6/12	奄美を彩る植物ガイドツアー	温室	21名	奄美群島の植物を中心に、温室内の植物を協会職員がガイドしながら解説
6/11	オンライン講演会 「奄美群島の植物の多様性」	講習室	11名	平城達哉氏とオンラインで繋ぎ、奄美の希少な動植物などをスライドを交えて紹介
6/11 6/12	ミニイベント	温室前 広場	700名	奄美出身者有志による三線の演奏会や物産展



(温室での奄美の植物展示)



(平城達哉氏写真展)



(奄美を彩る植物ガイドツアー)

② 自然を活用した事業

フィールド公園内の花や生物などの自然とふれあう催しを実施し、市民の方々に公園へ足を運んでいただいて、花と緑がもたらす効用や、生物多様性を考える機会を創出した。

・フィールド公園内の自然を活用した事業一覧表

開催日	事業名	開催場所	参加者数	内 容
4月25日	季節の花散策～アヤメ～(2回)	近松公園	19名	園内を散策しながらアヤメの話と観察
6月5日	季節の花散策～アジサイ～(2回)	元浜緑地	30名	見ごろのアジサイをガイド付きで見学
6月10日	健康ウォーキング教室	上坂部西公園	12名	公園を活用した正しい歩き方による健康増進
6月11日	植物園ガイド	上坂部西公園	12名	奄美を彩る植物ガイドツアー
6月12日	植物園ガイド	上坂部西公園	9名	奄美を彩る植物ガイドツアー
10月22日	植物園ガイド	上坂部西公園	37名	秋の始まりを感じる公園の植物を紹介
11月6日	季節の花散策～バラ～(2回)	大井戸公園	28名	解説を聞きながらバラ園を散策
2月25日	植物園ガイド	上坂部西公園	23名	園内の見ごろの植物の案内
3月25日	植物園ガイド	上坂部西公園	26名	公園の春一番の植物の案内
合 計		11回開催	196名	



(近松公園でのアヤマメ散策)



(元浜緑地でのアジサイ散策)



(大井戸公園でのバラ散策)

③ “みどりの学校” 開校

上坂部西公園周辺の工場や社宅跡地などに次々と建設された大規模マンション居住者などの子育て世帯の親子を対象にした、体験型の教室である「みどりの学校」を、これまでの小学校の夏休み期間から春・冬休み期間にも増やして開校し、ファミリー世帯に自然とのふれあいや植物を育てる楽しさを伝えるとともに、夏休みの宿題にも活用できる実益を兼ねた学習の場を提供した。

・子ども向け体験教室（みどりの学校）（受託事業）の開催状況

開催日	事業名	開催場所	回数	参加者数
4月2日	親子でバードウォッチング	上坂部西公園	1回	15名
7月23日	竹細工 トンボ作り	上坂部西公園	2回	27名
7月24日	セミ羽化観察会	元浜緑地	1回	60名
7月30日	身近な川の生きもの探し	上坂部西公園	2回	59名
8月6日	天然素材で蚊取り線香作り	上坂部西公園	2回	22名
8月21日	多肉植物の寄せ植えづくり	上坂部西公園	2回	22名
12月17日	こども寄せ植え体験	上坂部西公園	1回	14名
12月18日	昆虫観察会～ゴマダラチョウの幼虫を見つけよう～	上坂部西公園	1回	16名
合 計			12回	235名



(セミ羽化観察会)



(身近な川の生きもの探し)



(天然素材で蚊取り線香作り)

④ “草木遊び塾” 開校

子育て世帯の親子を対象に、子どもたちが木の枝やどんぐりの実などを使って自由な発想で工作を楽しむ「草木遊び塾」を本年度より始め、上坂部西公園で月1回定期的に開催した。



(草木遊び塾の様子)

⑤ “絶滅危惧植物” の保護

上坂部西公園では、これまで、植物園の使命である絶滅危惧植物の保護のため、市内の水路で保護した兵庫県絶滅危惧種Aランクのシダ植物「デンジソウ」、小笠原諸島のみで自生する国指定の絶滅危惧類「オガサワラグワ」、絶滅危惧2類の「リュウケツジュ（竜血樹）」などの譲渡を受けており、本年度は、武庫川河川敷で見つかった兵庫県絶滅危惧種Bランク「カワラサイコ」を受け入れた。

当園では、これらの他にもヒメバラモミやジュラシクツリー、ジャカランダ、サボテン類など約75種の国内外の絶滅危惧植物を保存、展示しており、日本植物園協会加盟園として絶滅危惧植物の保有状況調査及びリスト作成や「絶滅のおそれのある野生植物の種の国際取引に関する条約（ワシントン条約）」に抵触する植物の保管を行うなど、植物多様性保全に重点を置いた取り組みを行っている。



(カワラサイコ)



(ジャカランダ)



(リュウケツジュ)

⑥ SDGs 地域ポイント制度への協賛

尼崎市が実施する「SDGs 地域ポイント制度」に協賛し、公園での除草作業など当協会が指定するボランティア活動の参加者にSDGsポイントを付与するとともに、一定のポイント（1000ポイント）を貯めた方にはポイントをフラワーギフト券と交換するサービスを提供した。

(2) ボランティアとの協働の取り組み

本年度も、上坂部西公園をはじめとする普及啓発フィールドの基幹公園で立ち上げた公園ボランティアグループと共に、感染防止に留意しつつ市民協働の公園運営に取り組んだ。

① グリーンヘルパーとの協働の取り組み

花と緑に関する学習や研究に取り組む市民ボランティアグループ「尼崎市都市緑化植物園グリーンヘルパー」の皆さんが、当協会と連携のもと上坂部西公園を拠点に月2回の定例活動などを実施した。

- ・登録人数 19名
- ・定例活動日 毎月第2・4土曜日（定例日以外にも日常的に作業多数実施）
- ・活動内容 本年度も、公園内の一部の花壇の植替えや管理、植物園ガイドなどの活動に取り組んだ他、兵庫県が小学3年生を対象に実施する環境学習にサポーターとして登録し、7校23クラス737人の生徒を受け入れて上坂部西公園の植物観察会を行うなど、工夫を凝らした質の高い活動を実施した。



（樹名板の取付作業）



（植物園ガイド）



（小学生対象の環境学習）

② ローズAMA（大井戸公園）とのバラ栽培管理の取り組み

大井戸公園においてバラ栽培管理ボランティアを募り、ローズAMA（大井戸公園）の名称で月1回ボランティア活動を実施した。たくさんのバラが咲き誇る当公園のバラ管理に欠かせないグループとして、大変手間が掛かるバラ管理作業に活発に取り組んだ。

- ・登録人数 32名
- ・定例活動日 毎月第1木曜日
（上記以外にも日常的に作業を実施）
- ・活動内容 花がら摘み、除草、施肥など季節に応じたバラの栽培管理作業を実施した。



（ローズAMAの作業風景）

③ 近松公園アヤメクラブのアヤメ園整備の取り組み

アヤメ園の除草や枯れた花の刈り取り、アヤメの補植等を行って景観を整えるなど、各種整備に取り組んだ。

- ・登録人数 6名
- ・定例活動日 毎月第2水曜日
- ・活動内容 除草や施肥、薬剤散布、株分け等の管理作業を実施した。



（アヤメクラブの活動の様子）

④ 元浜緑地アジサイクラブの株数増加などの取り組み

踏圧などで衰退していたもみじ池周辺のアジサイを再生させるため、挿し木したものを育成して植え付け、花数の増加に取り組んだほか、除草や清掃など、幅広い活動を実施した。

- ・登録人数 6名
- ・定例活動日 毎月第2木曜日
- ・活動内容 アジサイ園の落ち葉清掃、除草、灌水、剪定などの維持管理作業、挿し木や補植などの増殖作業等を実施した。



(アジサイクラブの活動の様子)

⑤ ローズAMA（潮江公園）とのバラ栽培管理の取り組み

潮江公園において新たにバラ栽培管理ボランティアグループを立ち上げることができた。月1回のボランティア活動を開始し、たくさんのバラが咲き誇る当公園のバラ管理に欠かせないグループとして、大変手間が掛かるバラ管理作業に活発に取り組んだ。

- ・登録人数 11名
- ・定例活動日 毎月第3木曜日
- ・活動内容 花がら摘み、除草、施肥など季節に応じたバラの栽培管理作業を実施した。



(ローズAMAの作業風景)

⑥ ボランティアの皆さんへの記念品の配布

日頃のボランティア活動への感謝を込めて、記念品を作成し、各ボランティア活動団体の会員に対して配布した。



(ボランティアへの記念品)

(3) 仕事体験等の受け入れ

兵庫県が中学2年生を対象に職場体験として実施している「トライやるウィーク」の他、障がい者の方々との“しごと”との接点拡充のために取り組んでいる「障がい者しごと体験事業」、大学生の職場体験実習であるインターンシップなどを上坂部西公園で受け入れ、緑化普及の立場からの社会貢献事業に取り組んだ。

事業名称	回数・団体数	受入人数
中学生のトライやるウィーク	4校	12人
障がい者しごと体験事業	2回	2人
インターンシップ(兵庫県立大学)	1校	1人
合計	7校(回)	15人

(4) 講習会事業

緑の相談所での園芸等の講習会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講習会室の定員の50%（15名）を上限に実施した。コロナ禍以降の生活様式の変更を背景に園芸に関する注目が集まる中、自宅で楽しめるインドアグリーンやベランダ園芸、屋外での「公園で健康にウォーキング教室」など時宜にかなった講習を開いた他、社会人の参加機会を増やすための通勤帰宅時間に合わせた講習会、初心者向けのガーデニング体験の講座、皁月、小品盆栽等伝統園芸の管理方法を学ぶ教室など、多様な視点からそ野の広いメニューを企画し、市民の方々に提供した。

また、本年度から、緑に関わる人のすそ野を広げるため、植物に関する学びの観点に「国際交流・理解」を加えた講習会「世界の植物と暮らし」シリーズを開始し、生涯学習プラザなどに出向いて計4回開催したほか、より多くの市民に緑に関心を持ってもらうため、大型ショッピングモールでの出張講習会を開催した。

緑の相談所などにおける講習会開催状況

・上坂部西公園緑の相談所での一般講習会(受託事業)の開催状況

講習会名 / 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計		
													回数	人数	
ベランダで野菜を育てよう		15											1	15	
植物園（温室）ガイド				23									2	23	
インドアプランツの寄せ植え					15								1	15	
ベランダで果樹を育てよう							14						1	14	
冬の寄せ植えづくり									15				1	15	
しめ縄づくり									17				1	17	
クリスマスローズの育て方											16		1	16	
多肉植物の寄せ植え												20	1	20	
計	回数	0	1	0	2	1	0	1	0	2	0	1	1	9	—
	人数	0	15	0	23	15	0	14	0	32	0	16	20	—	135



(インドアプランツの寄せ植え)



(しめ縄づくり講習会)



(クリスマスローズの育て方)

・「世界の植物と暮らしシリーズ」講習会(自主事業)の開催状況

開催日	国名	講師名	開催場所	参加者数	内 容
7月29日	ベトナム	パオチャン氏、 フェン氏	上坂部西公園 緑の相談所	14名	ベトナムの植物や文化の紹介、料理の実演・試食
9月24日	オーストラリア	景観デザイナー David Hay氏	上坂部西公園 緑の相談所	13名	オーストラリアとzoomで繋ぎ植物や文化などを紹介
11月19日	中国	陳寧寧氏 塩原慧子氏	立花南生涯学 習プラザ	16名	中国の植物や文化の話と、中国人講師との水餃子作り
1月29日	ポーランド	坂口アンジェ リカ氏	中央北生涯学 習プラザ	18名	アロマのお話やボルシチの調理実習など
合 計			4回開催	61名	



(ベトナム編)



(中国編)



(ポーランド編)

・ショッピングモールでの出張講習会(自主事業)の開催状況

開催日	開催場所	講習会名	参加者数	内 容
11月13日	あまがさきキュー ズモール	多肉植物の寄せ 植え体験	33名	買い物ついでに気軽に参加 できる寄せ植え体験会
合 計			33名	



(キューズモールでの体験講習会の様子)

・上坂部西公園緑の相談所での一般講習会(自主事業)の開催状況

講習会名 / 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計		
													回数	人数	
菊作り	11	17	14	16		12						11	6	81	
洋ラン(連続講座含む)	14	29	15	12		9		11				8	8	98	
皐月盆栽	9	12	15	10		10	10	11	8	11	12	12	11	120	
小品盆栽	15	15	16	15	14	16	15	16	15	13	15	17	12	182	
計	回 数	4	5	4	4	1	4	2	3	2	2	2	4	37	—
	人 数	49	73	60	53	14	47	25	38	23	24	27	48	—	481



(菊作り講習会)



(皐月盆栽講習会)



(小品盆栽講習会)

・体験型花壇講習(受託事業)の開催状況

講習会名 / 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	
													回数	人数
上坂部西公園		10				15		15					3	40
西武庫公園		6				7		11					3	24
計	回数		2			2		2					6	—
	人数		16					22					—	64



(体験型花壇講習の様子)

・依頼講習会(自主事業)の開催状況

講習会名 / 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	
													回数	人数
尼崎市立身体障害者福祉センター							4		4				2	8
コミュニティールーム武庫運営委員会									10				1	10
計	回数						1		2				3	—
	人数						4		14				—	18

(5) 展示会事業

花や緑に関連する各種展示会についても、手指消毒などの感染予防対策を取りながら開催した。

温室では育成・展示している貴重な植物を活かした企画展示、展示施設では市民団体等の発表の場としての展示と、施設の特徴に応じて使い分け、また自主事業も多数企画し、多彩な展示会を開催して、花・緑の素晴らしさを広く発信した。

・展示会(温室)の開催状況

展示会名	開催期間	場所	区別	内容	来場数
奄美～島を彩る植物展	6/10～6/19	温室	受託	奄美大島で見られる植物の展示	1,273人
夜の温室植物展	7/23～7/24 7/30～7/31	温室	受託	月下美人やサガリバナなど夜に咲く、香る植物の展示	708人
受託事業 2回 自主事業 一回 合計 2回 延べ開催日数 14日 来場数 1,981人					



(奄美～島を彩る植物展)



(夜の温室植物展 (ドラゴンフルーツ))

・展示会（展示施設）の開催状況

展示会名	開催期間	場 所	区別	内 容	来場数
アートフラワー展	4/8～4/17	展 示 施 設	自主	布やワイヤーを使って本物同様の造花を展示	551 人
小品盆栽と山野草展	4/22～4/24	展 示 施 設	自主	尼崎小品盆栽山草会会員が育てた風情あふれる小品盆栽を展示	225 人
2021 あまがさきフラワーガーデニングコンテスト入賞花壇写真展	4/29～5/8	展 示 施 設	受託	各部門の入賞花壇の写真を展示	369 人
みどりとやきもの展	5/13～5/16	展 示 施 設	自主	「やきもの」に植物を添えた作品を展示	284 人
パンフラワー作品展	6/3～6/5	展 示 施 設	自主	小麦粉粘土や樹脂粘土、軽量粘土などで成形した花の作品を展示	208 人
平城達哉氏写真展	6/10～6/14	展 示 施 設	自主	世界自然遺産に登録された奄美の希少な動植物の写真を展示	557 人
グランドカバープランツ展	6/17～6/19	展 示 施 設	受託	ガーデニングにも最適なグランドカバープランツを展示紹介	141 人
粘土で作る四季の花展	6/24～6/26	展 示 施 設	自主	季節のテーマに沿った俳句と石粉粘土で成形した花の作品を展示	287 人
涼を呼ぶハイドロカルチャー展	7/8～7/11	展 示 施 設	自主	ガラス容器の中に植物を植え付けて楽しむ展示	240 人
親子で楽しむ手作り工作展	7/15～7/31	展 示 施 設	自主	紐や風船などを使って花を作るなど手作りで楽しむ工作を展示	260 人
市内で採れる蜂蜜展	8/5～8/8	展 示 施 設	受託	蜂と植物の関係や蜂蜜が採れるまでの工程を説明展示	150 人
地球環境世界児童画コンテスト作品展	8/13～8/21	展 示 施 設	受託	環境をテーマにした児童絵画コンクールの受賞作品を展示	207 人
ステンシル展	8/26～8/28	展 示 施 設	自主	身近な生活雑貨に型を使って植物などの絵を描いた作品を展示	136 人
こども写真展	9/2～9/11	展 示 施 設	自主	写真を通じて、こどもの個性や感性を伸ばす写真展	184 人
手作りガーデニンググッズ展	9/16～10/2	展 示 施 設	受託	花壇や庭に装飾できる木や石で作った手作りグッズを展示	879 人
秋の游鉢展	10/7～10/9	展 示 施 設	自主	ヤシガラ繊維を使った手作りの鉢に秋の植物を植え込んだ作品を展示	119 人
みどりとやきもの展	10/14～10/17	展 示 施 設	自主	「やきもの」に植物を添えた作品を展示	299 人
小品盆栽と山野草展	10/21～10/23	展 示 施 設	自主	尼崎小品盆栽山草会会員が育てた風情あふれる小品盆栽を展示	348 人
秋季さつき樹形展	10/28～10/30	展 示 施 設	自主	尼崎臈月協会会員が育てた臈月盆栽を展示	130 人
身近に見られる野鳥写真展	11/5～11/13	展 示 施 設	受託	上坂部西公園を中心に市内で見られる野鳥の写真を展示	211 人
草木染め展	11/18～11/21	展 示 施 設	自主	草木で染めた布を用いた作品などを展示	360 人

展示会名	開催期間	場 所	区別	内 容	来場数
花と緑の墨彩画展	11/25～11/27	展示施設	自主	色紙に墨や顔料で描いた花や緑の作品約20点を展示	173人
秋の洋ラン展	12/2～12/4	展示施設	自主	尼崎洋ラン会会員が育てた秋咲き洋ランを展示	276人
お正月飾り展	1/7～1/15	展示施設	受託	しめ縄など迎春に飾れる様々な飾りを展示	144人
冬を楽しむハイドロカルチャー展	1/27～1/29	展示施設	自主	ガラスなどの容器の中に植物を植え付けて展示	104人
市民の洋ラン展	2/3～2/5	展示施設	自主	尼崎洋ラン会会員が育てたランを展示	263人
クリスマスローズ展	2/23～2/26	展示施設	受託	原種と交配種のクリスマスローズを約110点展示	292人
ようこそボーイスカウト展	3/10～3/19	展示施設	自主	園芸や生活に欠かせないロープワーク方法を解説展示	287人
春の椿展	3/25～3/26	展示施設	自主	春に咲く椿を展示	53人
受託事業 8回 自主事業 21回 合計 29回 延べ開催日数 168日 来場数7,737人					



(市内で採れる蜂蜜展)



(手作りガーデニンググッズ展)



(ハイドロカルチャー展)

(6) 緑の相談業務

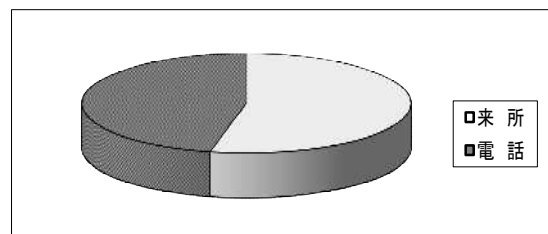
上坂部西公園緑の相談所において、当協会園芸相談員等の専門家を配し、緑化園芸相談を年間を通して実施した。相談にあたっては、相談者のレベルに応じたわかりやすい説明に留意するなど、多様なニーズに的確に応えるよう努めた。

① 相談所利用状況

来所・電話別

来 所	電 話	合 計
1,534	1,330	2,864
53.6%	46.4%	100%

※1人当たり複数の内容の相談を受ける場合があるため、年間の相談件数は5,055件にのぼる



② 主な相談内容

草花や野菜、果樹等の育成方法や樹木の手入れ、病虫害の防除、土づくり、植物の分類など多岐に亘り、ビギナーから上級者まで丁寧に対応した。

(7) 2022 あまがさきフラワーガーデニングコンテストの開催

市民の方々などが手掛けた自慢の花壇を、家庭・コミュニティ・学校緑化の3部門で募集して専門家が顕彰する当コンテストを本年度も実施し、まちの魅力を内外に発信するとともに、技術向上の一助とした。また、併せて、近年の住宅事情の変化により当コンテストの応募件数が伸び悩んでいることから、新たな部門の設置に向けた検証を行うため、近年人気の家の中やベランダなどのインドアグリーンを対象に、「家（うち）中（なか） 緑（みどり） 自慢写真」の応募を試行した。

- ・ 募集期間 令和4年5月1日（日）～11月30日（水）
- ・ 審査日 令和5年1月24日（火）
- ・ 応募総数 21件
- ・ 入賞花壇数 10件（家庭緑化部門2件、コミュニティ緑化部門1件、学校緑化部門2件、緑化公園協会特別賞5件）
- ・ 各部門の入賞花壇



(家庭緑化部門【最優秀】)



(コミュニティ緑化部門【優秀】)



(学校緑化部門【最優秀】)

(8) ローズアマガサキ事業

園芸研究家の藤岡友宏氏が交配・作出し、市制100周年である2016年に新品種のバラ10種の中から市民投票により決定された尼崎市のオリジナルローズである「ローズアマガサキ2016」を、各種講習会や公園内への掲示、HPでの紹介などを通じて広く広報に努めた。

また、同バラのPRのため、新たに蓬川緑地バラ園に同バラを植栽した。



(ローズアマガサキ2016)

(9) 花・緑情報の発信

① 緑の相談所での情報発信

緑の相談所では、市民が花や緑について自由に学習及び情報収集ができるように、本棚を増設し、特に、子育て世代をターゲットとした絵本や子ども向けの図書を増冊して、学べる空間を提供した。



(学習空間の整備)

② 緑の相談所だよりの発行

年4回の四季発行で、季節ごとのトピックや催し等の広報を中心に、話題の植物や希少な植物の情報、ガーデニングのアドバイスなど、幅広く興味を持たれるような紙面構成を心掛け、読者層の拡大に努めた。

本年度の夏号では、奄美の植物を特集し、温室に展示するガジュマルのエピソードを紹介するなど、建設50周年を迎える温室の魅力を多くの市民に発信した。



- ・発行部数 各号3,000部発行。年間発行数12,000部 (緑の相談所だより)
- ・主な配布先 本市緑の相談所、本庁、支所、公共施設、金融機関の待合等で市民配布。また学校、近隣市の緑の相談所、賛助会員及び花いっぱいの会々員に送付

③ ホームページによる情報発信

中高年事業(株)との統合を機にリニューアルしたホームページを活用して、市民が最も知りたい公園情報、ボランティア活動の募集案内、四季折々の植物紹介や開花情報、イベント情報や講習会・展示会の案内等のタイムリーな情報を提供した。



(当協会ホームページ)

- ・HPの発信回数とアクセス数

年度	R2	R3	R4
情報発信回数	92回	288回	484回
HP訪問数(アクセス数)	43,692回	70,855回	88,764回

④ SNSを活用した情報発信

尼崎市と共同で運営しているFacebook「アマグリ」を活用して公園での花や緑の見頃情報や、緑化行事の紹介などをリアルタイムで発信し、ネットワークでつながるユーザーや当協会事業への関わりが比較的少ない若者世代への情報提供を積極的に行った。



(FB (アマグリ))

また、新たな情報発信ツールとして、協会公式Instagramを立ち上げ、試行的に運用を始めた



(インスタグラム)

F B 情報発信回数	199回
------------	------

⑤ 観光情報施設等からの情報発信

阪神尼崎駅前にある尼崎観光案内所(旧中央公園パークセンター)や、JR尼崎駅構内にあるあまがさき魅力案内所「あまらぶ i+Plus」に加え、新たに尼崎北郵便局に公園パンフレットや緑の相談所だより等の印刷物を提供し、幅広い層に向けて緑化情報を発信した。



(尼崎北郵便局)

⑥ 記念公園総合体育館への広告看板の掲示

体育館利用者等に対して、協会のPRと緑への興味をもってもらうため、4年度も引き続き、尼崎市記念公園ベイコム総合体育館に広告看板を掲示した。



(体育館に設置した広告看板)

⑦ 公園リーフレットの作成



公園利用者への利便性の向上と広く市民へ当協会が管理する公園をPRするため、昨年度の上坂部西公園に続き、本年度は情報が古くなった元浜緑地のリーフレットをリニューアルし、広く市民に配布した。

- ・作成部数 1,000部



(元浜緑地リーフレット)

⑧ FMあまがさきからの情報発信

地域密着のコミュニティ放送局である「FMあまがさき」に定期的に出演して、当協会が関わるイベントや、講習会・展示会の案内、病気・害虫対策等の園芸相談など、様々な花・緑情報を発信した。

担 当	放送回数	放送内容
上坂部西公園緑の相談所	24回	・開花情報 ・園芸ミニ知識 ・講習会、展示会の案内 等

(10) 園地維持管理業務

フィールド公園等の園地部分の清掃、除草、かん水をはじめとする保護育成、花壇の維持管理や流れ等の施設管理業務を実施することに加えて、機動班を投入して見通し確保のための低木の切下げや高木の下枝剪定、危険木の剪定等を行った。



(高所作業車による剪定作業)

(11) 施設管理業務

① 元浜緑地わんぱく池運営管理業務

子ども達が水遊びのできる約750㎡の施設で、手こぎいかだ等の水の遊具や樹形の噴水・水のカーテンが設置されているわんぱく池の運営管理は、6月5日から9月4日の間で、新型コロナウイルス感染防止のため、人数制限を行うと共に、午前（9時～12時30分）と午後（13時～17時）の2交代の完全入れ替え制にするなど徹底した感染防止対策を講じて実施した。

・〔開園期間 6月5日(日)～9月30日(日)〕

開場日数	利用者数	1日平均利用者数	最高利用者数
80日	25,229人	315人	942人[7月17日(金)]

② 元浜緑地駐車場管理運営業務

元浜緑地駐車場の管理運営業務を受託し、公園利用者の利便を図った。

開場日数	普通車入庫数	大型車入庫数	総入庫数	1日平均入庫数
359日	20,780台	68台	20,848台	58台

③ その他施設管理

上坂部西公園緑の相談所や元浜緑地管理棟の電気点検、消火器点検等の施設管理業務を法令等に基づき、適正に実施した。

一部の老朽化した設備については、不具合箇所を速やかに市に報告し、計画的な更新を要請した。

(12) 公園管理に関するその他の取り組み（循環型社会形成への貢献）

① 剪定枝のチップ化によるリサイクル

当協会が所有する大型樹木粉碎機（ウッドチップパー）を活用して、剪定の際に発生する枝等を焼却処分せずチップ化して再利用する取り組みを行い、二酸化炭素排出量の抑制に努めた。

本年度のチップ化作業では、元浜緑地や尼崎の森中央緑地で発生した剪定枝や間伐材を粉碎し、36㎡のウッドチップを作り出して園路に敷きならしたり、植栽苗木の足元に雑草抑制のためのマルチング材として敷き詰めるなどの有効活用を行い、資源の循環に取り組んだ。



(剪定枝のチップ化作業)

② マリーゴールドによる害虫駆除の取り組み

マリーゴールドは、畑や花壇の土にすき込むと土壌中の有害線虫を減らす効果があることから、花壇の植え替えで抜き取った株を市民の方々に利用方法を説明して配布し、農薬を用いない環境にやさしい害虫駆除方法を推奨した。



(花壇の植替えで抜き取ったマリーゴールド)

2 西武庫公園管理運営業務

(1) 西武庫公園の魅力向上の取り組み

本年度も西武庫公園の管理運営を継続して受託し、園内の自然を活用した緑化普及啓発や公園利用促進の取り組みを行った。

① 西武庫公園での緑化普及啓発の取り組み

月 日	日数	取組名称	参加者数	内 容
10月22日	1日	多肉植物の寄せ植え体験	40名	多肉植物で寄せ植え作り(武庫まつり)
10月23日	1日	西武庫公園で見られる身近な野鳥の観察	9名	西武庫公園で見られる身近な野鳥の観察
計		2回	49名	



(多肉植物の寄せ植え体験)



(野鳥観察会)

(2) ボランティアとの協働の取り組み

花づくりボランティア「西武庫公園フェアリーズ」との協働作業として、種から苗を育てて園内の花壇に植栽する取り組みを行った。



(花壇の植付作業)

- ・登録人数 4名
- ・定例活動日 毎週土曜日
(上記以外にも日常的に作業を実施)
- ・活動内容 公園ボランティア「西武庫公園フェアリーズ」の方々と協働で、園内に設置してあるビニールハウスで花苗を生産し、公園内の花壇に植栽して管理を行った他、園内の施設の装飾なども手掛けるなど、公園の美化に努めた。

(3) ネットワーク会議の事務局

本年度も引き続き、公園利用団体等から構成される「西武庫公園ネットワーク会議」の事務局を務め、ネットワーク会議が主催する公園での催し(冒険広場がやってきた!)の実施に向けて企画・調整を行った。例年の開催日である11月23日はあいにくの雨であったため日を改め、3月19日に内容を一部変更し、ゴーカートによる交通教室や滑車すべりなどの遊びのブースと、ポップコーンづくりという構成で開催した。



(ミニ冒険広場の様子)

(4) あまがさき健康ファームの取り組み

園内の分区園奥の未利用地を活用し、市の健康支援推進担当とタイアップしてスタートした、「あまがさき健康ファーム」の取り組みを引き続き実施した。この事業は、市の特定検診で物忘れチェックを受診された方を対象に、農作業による認知症予防を目的として農地を有償で提供するもので、併せて園芸相談員が年間10回の農作物栽培等の講習を実施する付加価値を加えて運営する貸農園。



(農作物栽培講習会)

・農園栽培講習参加者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	4	4	5	—	5	10	3	6	5	6	—	5	53

(5) 園地の保護育成と施設の管理

老朽化し、枯れ枝が目立っていた園内のサクラを機動班で一斉に手入れすると共に、新たにサクラを3本植栽するなど、利用者の安全・安心につながる適正な公園管理に努めた。また、西武庫公園駐車場の管理運営業務を受託し、利用者の利便性向上に努めた。

・西武庫公園駐車場利用状況

開場日数	普通車入庫数	大型車入庫数	総入庫数	1日平均入庫数
365日	41,511台	17台	41,528台	113台

3 尼崎の森中央緑地運営管理業務

兵庫県園芸・公園協会、阪神園芸(株)との三者共同体での指定管理（5年間）の2年目にあたる当業務については、引き続き環境学習の各種プログラム実施や森づくり活動の支援、緑地及び施設の維持管理等を担当し、加えて各種集客イベントにおいても十分な協力体制を敷いて取り組むなど、緑地の美化と事業目的達成に努めた。本年度も高いハードルが設定されている来園者目標数（30万人）を達成するため、主催行事や持ち込みイベントの誘致などの催しを多数計画し実施した。新型コロナウイルスの影響により規模を縮小したイベントもあったが、兵庫県の感染対策を遵守し、人数制限を設けるなどして開催し、また土日祝の利用者増もあって、公園利用者がこれまでで最高の290,110人となった。

また、市報への記事掲載や、各種ホームページ、SNSを活用した催し等のPR、緑の相談所をはじめとする各施設でのチラシ等の配布や掲示など、尼崎の森中央緑地の認知度を向上させるための各種情報発信にも注力した。

・魅力アップ事業（県市共同事業）の開催状況

事業名称	内 容	参加者数等
環境体験事業（県事業）	県内の小学校児童を対象にした環境学習	1,322人
環境体験事業（尼森独自事業）	幼稚園等上記以外の園児、生徒を対象	451人
環境体験プログラム1	季節ごとに異なる自然環境を楽しく学ぶ	297人
環境体験プログラム2	一般来園者がいつでも気軽に体験	2,688人
環境体験プログラム3	自然に関するより詳しい知識を学ぶ	91人
尼崎の森ファミリークラブ	本市及び近隣市の小1を対象にした植樹	181人
昆虫採取イベント	当緑地に生息する昆虫を捕獲し観察する	200人
森の子育てひろば	阪神間の親子が自然を体感する	49人
環境学習サポーター養成講座	環境体験をサポートするボランティア養成	68人
生物多様性促進イベント	森づくりを広くPRするイベント	432人
自由提案イベント	大芝生広場等を活用した大規模集客イベント	200人



(環境体験事業)



(環境体験プログラム)



(尼崎の森ファミリークラブ)

・利用促進事業（県事業）の開催状況

事業名称	内 容	参加者数等
持込み企画誘致・サポート事業	大芝生広場でダンスや音楽イベントの誘致	300人
食のイベント推進プロジェクト	阪神間の飲食店等による食がテーマのイベント	15,380人
茅葺き民家活用プロジェクト	民家や森を使って里山の暮らしを体験	1,197人
ひょうごヘルシーパークプロジェクト	ウォーキングやヨガ等の健康づくり	2,700人
運動会等開催サポート	近隣企業等の運動会等の開催をサポート	0人
子育て交流スペース設置・運営	子育て情報コーナーや交流スペース	407人
夏休み自由研究サポートプログラム	緑地の自然素材を活かしたワークショップ	1,000人
乳幼児支援の展開	屋外スペース等を貸出、安心して遊べる場の提供	0人
森から学ぶ幼児教育プログラム	親子で一緒に楽しめるプログラム	182人
森のお道具箱	間伐材等のクラフト材料を貸し出し	172人
元プロ野球選手から学ぶ3世代交流キャッチボール教室	キャッチボール教室など	108人
生物多様性あまもり戦略2019の推進	各活動・催しに当計画を組み込み	各活動にて実施
生物多様性普及啓発プロジェクト	地域制苗の活用及び普及啓発	1,108人
ボランティア活動団体支援プロジェクト	自治体や教育関係者に研修	各団体へ支援
森のセルフガイド推進プロジェクト	指導者なしで学習・体験できるセルフガイド	217人
郷土種グリーンフェスタ	郷土種を使った体験プログラム	500人
尼森防災プロジェクト	県・市と連携した防災イベントや訓練	3,800人
安心安全プロジェクト	危機管理マニュアルに基づく避難訓練など	AED訓練等実施
みんなにやさしい公園づくりプロジェクト	HPに園内バリアフリーの掲載や園内看板の整備	各所にて実施
アクセス向上社会実験プロジェクト	バスや自転車でアクセス向上の社会実験	401人
会議室セットプランサービス	環境学習教材とセットで会議室を提供	0人
あまもりフェノロジーカレンダー	公園の草花等のカレンダー等を作成	173人
1000ha連携プロジェクト	1000haエリア内の企業、運河関係団体と連携	327人
学生との連携プロジェクト	近隣の大学との連携による緑地の活性化	187人
森の会議発案企画サポート	オリジナルの競技を楽しむ運動会など	100人
森の文化祭	近隣地域へのPRを目的にしたイベント	3,800人
夜の公園活動プログラム	星空観望会など	287人
DYI技術向上プログラム	各ボランティア園内整備の技術向上	40人
尼崎の森中央緑地ガイドツアー	職員と緑地内を巡るガイドツアー	703人
公園活用プロジェクト	通常禁止されている公園利用をイベントとして行う	335人

事業名称	内 容	参加者数等
インスタ映えスポット紹介・写真コンテスト	写真コンテストの開催など	129人
親子で運動を楽しむプログラム	大芝生広場などでスポーツプログラム	2,926人
新たな公園の管理運営について	公園内での「ひょうごスタイル」推進など	適宜実施



(食のイベント推進プロジェクト)



(3世代交流スポーツ教室)



(尼森防災プロジェクト)

4 緑地・緑道等の保護育成業務



会社から移管された当業務では、市内の公園や緑地緑道、街園、植樹帯など411カ所の樹木剪定、生垣剪定、芝刈、除草等の維持管理を持ち前の機動力を活かして適切に実施するとともに、公益目的事業として潮江公園でのバラ散策会などの緑化啓発事業を実施し、緑に親しむ人のすそ野の拡大に取り組んだ。

・管理対象

公園	159カ所
子ども広場	82カ所
緑地緑道	60カ所
街園	55カ所
植樹帯	55カ所
計	411カ所

・緑地緑道での緑化普及啓発の取り組み

月 日	場 所	取組名称	参加者数	内 容
5月14日	潮江公園	季節の花散策～バラ～(2回)	18名	見ごろのバラをガイド付きで見学
12月14日	北雁替公園	チューリップ運動球根植付	11名	市民との協働でチューリップの球根400球を植付



(潮江バラ散策会)



(北雁替チューリップ球根植付け)



(大井戸公園のバラサイン)

また会社との事業統合のシンボル事業として取り組むバラ園リニューアルプロジェクトは、昨年度の潮江公園に続いて、大井戸公園バラ園のサイン整備を行い、中期計画に掲げる「まちの魅力となる緑の情報発信」の強化を図った。

5 あまがさき桜マップ制作業務

市内各地に多数植えられているサクラに焦点を当て、職員自らが6班体制での撮影チームを編成して写真を撮り、サクラの名所100カ所を紹介したリーフレット「あまがさき桜マップ～駅からめぐるサクラの名所100選～」を作成し、尼崎観光局や商工会議所、公共施設等で無料で配布した。

このマップは、日刊紙3紙に取り上げられた他、ネット記事にも掲載されるなど大きな反響があり、当初3,000部作成したものが早期に無くなって1,500部を追加発注するなど、尼崎の魅力発信に寄与する取組となった。



6 ファミリーフェスタの開催

秋の恒例行事として継続して実施している「ファミリーフェスタ」を尼崎の森中央緑地で開催した。この催しは、広大な大芝生広場を会場として、当緑地を共同で管理している県園芸公園協会が主催する「郷土種グリーンフェスタ」との2催事合同での取り組みで、郷土の野草の寄せ植えや、ステージイベント等で多数の家族連れが訪れる中、当協会が執り行うファミリーフェスタでは、ゴーカートや子ども達の各種遊びのコーナーを提供して来園者を招き、秋の休日を楽しんでいただいた。

- ・開催日 10月9日(日)
- ・場所 尼崎の森中央緑地・大芝生広場
- ・参加者数 約500人(2つの催事のトータル数)
- ・内容 ゴーカートで遊ぼう、竹馬や竹コッポリなどの昔あそび体験、縁日等



(ゴーカートで遊ぼう)



(昔あそび体験)



(ステージ)

6 尼崎市民農園の運営管理

本年度も農園主から管理業務を受託して実施した。市農政課から農園管理を引き継ぎ、協会独自事業として農園の巡回点検や利用指導の他、年10回の市民農園教室開催などに取り組んだ。

・各年度ごとの管理農園及び区画の増加数

区分/年度	H25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
農園数増減 (累積数)	+ 4 農園 (4 農園)	+ 4 農園 (8 農園)	+ 4 農園 (12 農園)	+ 4 農園 (16 農園)	+ 1 農園 (17 農園)
区画数増減 (累積数)	+312 区 (312 区画)	+186 区画 (498 区画)	+249 区画 (747 区画)	+140 区画 (887 区画)	+27 区画 (914 区画)

区分/年度	30 年度	R 元年度 ^{※1}	2 年度	3 年度	4 年度 ^{※2}
農園数増減 (累積数)	0 農園 (17 農園)	+ 1 農園 (18 農園)	+ 1 農園 (19 農園)	± 0 農園 (19 農園)	± 0 農園 (19 農園)
区画増減数 (累積数)	-3 区画 (911 区画)	+53 区画 (964 区画)	+33 区画 (997 区画)	-3 区画 (994 区画)	-87 区画 (907 区画)

※1：廃園 1，新規開設 2 ※2：廃園 1，新規開設 1

・農園教室の開催状況（概ね各農園ごとに開催）

月	開催日	開催回数	テーマ	参加者数
4 月	12, 15, 18, 20 日	19 回	夏野菜の初期管理	125 名
5 月	16, 18, 19, 25 日	19 回	夏野菜の中間管理	131 名
6 月	17, 20, 23, 29 日	19 回	夏の栽培管理	116 名
7 月	21, 25 日	4 回	秋冬野菜の育て方	37 名
9 月	13, 15, 22, 30 日	19 回	秋冬野菜の準備	93 名
10 月	13, 17, 19, 25 日	19 回	タマネギ、キャベツ他	101 名
11 月	11, 16, 17, 24 日	19 回	11 月から 12 月の管理作業	89 名
12 月	12, 13, 20, 21 日	19 回	防寒対策と早春まきの野菜	70 名
1 月	24 日	2 回	コンパニオンプランツ	24 名
3 月	7, 8, 14, 28 日	16 回	春夏野菜の準備	66 名
合計		155 回		計 852 名



(農園教室の様子)

Ⅱ 公益2事業〔定款事業(2)〕

(市民ボランティアグループ及び市民運動として展開している花のまちづくりの協働推進事業)

1 花と緑のまちづくり推進事業

(1) 街なみ街かど花づくり運動業務

本年度も引き続き市民ボランティアの花の世話役さんで組織する「尼崎花のまち委員会」の事務局を務め、市民自らの手で花を育てて街を飾ることにより、美しい街なみ景観の向上を図る「街なみ街かど花づくり運動」を推進した。



(圃場での種まき)



(総会の様子)

・ガーデニング教室の開催状況

講習会名/月日	6/7	7/5	9/6	10/18	11/8	12/6	修了レポート	修了者
花のガーデニング教室基礎コース	9名	10名	8名	10名	8名	10名	8名	8名

講習会名/月日	6/6	6/20	7/4	9/5	11/14	12/5	修了レポート	修了者
花のガーデニング教室応用コース	4名	4名	5名	2名	3名	3名	2名	2名

・会員数 (令和4年度末現在)

ボランティア区分	グループ数	人数
花の世話役さん(市民ボランティア)	116グループ	476名
公共施設の花づくり(市・団体職員等ボランティア)	53グループ	158名
合計	169グループ	634名

※ 市民ボランティアの個人会員13名を含む

(2) 花のまちあまがさきチューリップ運動業務

① チューリップ運動の推進

本年度も引き続きチューリップ運動推進会議の事務局として、運動の推進に鋭意取り組んだ。

球根の仕入れ単価が大幅に値上がりしたことにより、1袋当たりの球根数を1球減らさざるを得なくなったが、本年度は市民まつりや農業祭での販売を再開できたことや、昨年度に引き続き「百合咲き」や「八重咲き」「フリンジ咲き」などの変わり咲きチューリップの割合を大幅に増やして、目新しさを出す工夫をしたことなどにより、普及総数はおよそ9万2千球と前年とほぼ同数程度をキープした。また、企業・団体からの寄付を活用して駅前等を彩る市民大型花壇についても、感染防止策を講じて少人数で植え付けを行い、春のチューリップ開花を維持した。

更に、2万本のチューリップが咲き誇り市内屈指の大型花壇である阪神尼崎駅前芝生広場は、開花期の柵の開放を例年どおり行い、間近での鑑賞を可能にしたが、「チューリップまつり」の開催や幼稚園児の写生会、吹奏楽の演奏会などの催しは、新型コロナウイルス感染防止のため中止した。



(JR 尼崎駅北緑道での植付け) (市民まつりでの球根販売) (中央公園の満開のチューリップ)

② 東日本大震災被災地応援プログラム

尼崎市がカウンターパートとして支援している宮城県気仙沼市の春をチューリップで彩り、気仙沼市民の皆様を元気づける取り組みとして続けてきた当プログラムについては、震災後10年の節目をもって昨年度に終了したため、その残金346,913円を気仙沼市緑化推進協議会に寄付し、気仙沼市での緑化推進事業に充てていただくこととした。

Ⅲ 公益3事業【定款事業(3)】

(尼崎市緑化基金を活用した緑の保全及び緑化催事開催による普及啓発事業)

1 春の公園で緑を楽しもう！の開催

春の恒例行事である「春の花と緑のフェスティバル」は、コロナ禍で従前の実施内容での開催は困難なことから、子育て世帯を対象に園内ガイドや寄せ植え教室などを申込制で実施するものに模様替えし、名称も「2022 春の公園で緑を楽しもう！～春のみどりの学校～」に改めて開催した。当日はあいにくの雨模様であったが、多くの緑化関連団体に出店等をご協力いただいた他、兵庫県人と自然の博物館の移動博物館車「ゆめはく号」による恐竜や・植物の化石や昆虫の展示なども行い、約200人の来園があった。

また当日は、行事の開催と合わせて“2021 フラワーガーデニングコンテスト”の表彰式を行い、「家庭緑化」、「コミュニティ緑化」、「学校緑化」の各部門において受賞された方々に稲村和美尼崎市長と当協会森山理事長から表彰状と記念品を贈った。



(フラワーガーデニングコンテスト表彰式)



(恐竜の化石の展示)



(多肉植物の寄せ植え講習会)

2 屋外展示会共催事業（中央公園芝生広場内）

伝統園芸の深みと趣きのある作品を紹介して愛好家に楽しんでいただくとともに、関心を持つ人のすそ野を広げていくために毎年開催しているさつき展と菊花展については、手指消毒や一方通行による観覧などの感染防止策を講じ、来場者と会員の安全に配慮した形で開催した。

名 称	開催期間	日数	内 容	入場者数	場 所
さつき展	5/21～5/29	14日	皐月盆栽など約100鉢を出品展示	2,163人	中央公園
菊花展	10/30～11/12	14日	大菊3本立てなど約350点を出品展示	4,744人	中央公園



(さつき展)



(菊花展)

3 民有地緑化推進事業

(1) 生垣等設置助成事業

緑視率を高めることによるまちなみ景観の美化と防災効果のため、ブロック塀を生垣に作り替えたり、生垣を新設する経費の一部を助成する事業で、本年度は1件の助成を行った。

- ・ 助成対象…公道(公道と公道を結ぶ、幅員2.7m以上の私道を含む。)に面し、緑化の延長が概ね3m以上のもの
0.5m以上の高さの樹木を1m当たり3本以上植栽
設置後5年以上活用できるもの
- ・ 実績 1件
- ・ 延長距離 11m
- ・ 助成額 53,900円

(2) 保護樹木等の助成事業

尼崎市が指定した保護樹木等(単木60本・樹林47箇所)の保護養生に要する経費を所有者等に助成する事業で、本年度は7件の助成を行った。

- ・ 指定基準…単木：地上高1.5mでの幹周1m以上、樹高10m以上
樹林：保護樹木を含む面積が300㎡以上

種類/地区	中央	小田	大庄	立花	武庫	園田	計
樹木	5本	17本	6本	7本	8本	17本	60本
樹林	3カ所 9,920㎡	11カ所 15,155㎡	2カ所 6,879㎡	8カ所 16,629㎡	11カ所 12,382㎡	12カ所 20,563㎡	47カ所 81,528㎡

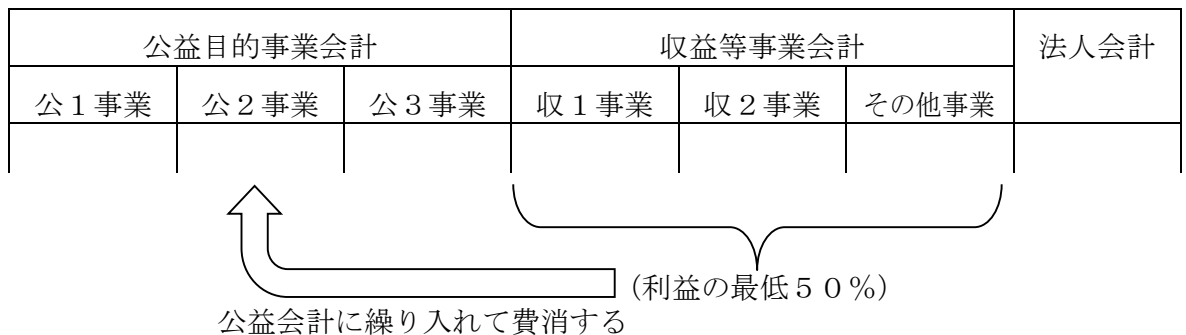
- ・ 本年度助成内容 剪定 7件
- ・ 助成額 1,696,815円

◆ 収益等事業

* 統合後の収益事業の意義

公益法人認定法施行規則では、公益法人が収益事業等を行う場合、収益事業等から生じた利益の50%は公益目的事業会計に繰り入れ、公益のために使用することが義務付けられている。

これは、収益事業の規模が格段に大きくなった統合後の当協会において、法人内部で公益目的事業の充実を図るための財源を捻出する仕組みができたことを意味し、画期的な統合効果となった。



I 収益1事業 【定款事業(4)】

1 花・植木等販売事業

緑の相談所での園芸相談や市民農園での栽培指導時に、作業に必要な薬剤や肥料等の説明と合わせて当該商品をコンサルティング販売したほか、「花のまちあまがさきチューリップ運動」の一環としてのチューリップ球根販売など、市民運動や環境緑化の取り組みに寄与する事業を行った。また、クリスマスの時期にシクラメンやポインセチアを販売するなど例年人気の高い植物をピックアップしての販売事業も実施した。更に、学校等への年2回の通信販売「春季及び秋季の特別販売」や、学校行事の装飾等で使用する鉢花等の注文販売を本年度も引き続き実施するなど、売上げの増加と自主財源の確保に努めた。

(1) コンサルティング販売（緑の相談所・市民農園）

・売上 338,671円

(2) チューリップ運動球根の販売

① 窓口販売（緑の相談所、本庁舎、生涯学習プラザ等）

・売上 1,100,040円

② 受注販売

・売上 364,830円

③ 催事販売

販売名称	期 間	場 所	売 上
市民まつり	10 / 2	橋公園	129,730円
うまいもんマルシェ	10 / 15	中央公園	12,330円
農業祭	11 / 6	橋公園	89,240円

(3) その他の受注販売

- ・期間 年間を通じて随時受け付け
- ・内容 花苗、野菜苗、鉢花、種子、用土、肥料などの注文販売
- ・対象 学校、公共施設、賛助会員等
- ・件数 2件
- ・売上 32,040円

(4) 通信販売

① 春季特別販売

- ・期間 4月1日～4月20日
- ・内容 トマト、ナス等夏野菜と花苗、用土、肥料の販売
- ・対象 学校など
- ・件数 49件
- ・売上 1,113,340円

② 秋季特別販売（冬・春花壇用花苗等含む）

- ・期間 9月1日～9月21日
- ・内容 パンジーなどの花苗や用土、肥料と秋植え球根等の販売
- ・対象 賛助会員、学校、花いっぱい会など
- ・件数 花苗及び資材45件 球根36件
- ・売上 1,500,900円

II 収益2事業【定款事業(4)】

1 道路植樹帯等の保護育成業務



市内一円の道路植樹帯等192路線の樹木剪定、芝生管理、清掃、除草、花壇管理等の業務を尼崎市から受託し、会社時代からの強みである機動力を駆使して適正かつ効率的に維持管理を行い、街の美化と協会の収益確保に努めた。



(道路植樹帯の管理業務)

2 阪神尼崎駅北駅前広場等の維持管理業務



阪神尼崎駅北駅前広場、中央公園、庄下川公園及び庄下川歩行者専用道路など対象区域における巡回、各施設の点検及び補修、清掃等の日常管理や、樹木・生垣剪定、除草、病害虫防除、花壇植替等の緑化業務を尼崎市から受託し、尼崎市の玄関口である当エリアの美化と協会の収益確保に努めた。

尚、当業務は令和5年度から、駅周辺のエリアマネジメントを担う新たな指定管理者に移管されるため、本年度末をもって受託終了となる。



(中央公園 (人工地盤))

3 民間団体等からの受託業務



企業や工場、集合住宅及び個人邸などの剪定、除草、病害虫防除などの業務を多数請け負い、リーズナブルで良質な維持管理により顧客満足度向上に努め、リピーターを確保して自主財源の増加を図った。

- ・取引先 (株)東急コミュニティー、日本管財(株)
(株)ウォーターエージェンシー、日油(株) 等 208件
- ・売上 52,467,996円



(集合住宅の剪定)

II その他1事業【定款事業(4)】

1 オリジナルカレンダーの制作



毎年、テーマを決めて制作しているオリジナルカレンダーは、建設50周年を迎えた温室をテーマに、部数を増やすなど仕様を変更して作成し、広く市民等に無償配布した。

- ・作成仕様 A4版中綴じ(開くとA3)14枚綴りフルカラー
- ・作成部数 2,000部



(カレンダー)

2 賛助会員の確保

当協会の緑化普及活動の趣旨に賛同し、緑あふれるまちづくりに協力いただく会員の確保に取り組み、緑化普及啓発の輪の拡大に努めた。

- ・過去5年間の会員数

年度	会員数	口数
平成30年度	156件	275口
令和元年度	147件	264口
令和2年度	148件	266口
令和3年度	134件	238口
令和4年度	144件	266口

3 県民まちなみ緑化事業等申請窓口業務

兵庫県が「緑」の保全、再生を目的として導入した「県民緑税」を活用して実施している「県民まちなみ緑化事業」や阪神北県民局が実施する「緑化資材の提供事業」などの各種緑化事業の申請窓口業務を受託し、広報や申請の受付指導、文書審査、委託者への進達などを行った。

事業名称	内 容	取扱件数
緑化資材の提供事業	緑化活動グループ(自治会等)への緑化資材の提供	20件
県民まちなみ緑化事業	屋上や壁面緑化、校庭芝生化等緑化事業費の補助	8件

4 緑化協力団体の育成事業

伝統園芸の保護・継承や、草花等によるまちの美化など、緑化の普及啓発に携わっている団体の活動援助、会員確保・増加の取り組みのサポートのほか、展示会開催にあたり支援するなど、指導、育成と連携を図った。

・緑化協力団体等関連団体一覧

団 体 名		
尼崎市菊花協会	尼崎洋ラン会	尼崎皐月協会
尼崎小品盆栽山草会	尼崎市花いっぱい会	



(尼崎小品盆栽山草会による展示)



(尼崎洋ラン会による展示)

5 緑の募金の実施

(公社)兵庫県緑化推進協会が実施する「緑の募金」を、募金箱の設置や幼稚園、小、中、高等学校、事業所、市民及び市職員等を対象に募り、募金された方には緑の羽根を配付した。

なお、緑の募金については緑化推進協会が実施する「森と緑のふれあい支援事業」の原資として様々な緑化普及事業に活用されている。

・緑の募金額 13,480円

6 職員のスキルアップ・能力開発

本年度は定年退職者等の欠員を補充するため、17年ぶりに正規職員（作業員以外）の新規採用を行ったことから、「尼崎市職員研修への外郭団体等職員受け入れに関する要綱」に基づく新規採用職員等研修を受講させた他、日本植物園協会が実施する技術者講習会や刈払機取扱作業安全衛生教育の受講など、職員の資質向上と緑化技術の研鑽に努めた。

また、上坂部西公園の温室が建設50周年を迎えたことから、記念事業として開催する奄美関連行事の準備に向け、奄美群島を訪問する視察研修も行った。

更には、4月1日付で義務化された中小企業に対するパワーハラスメント防止措置に対応し、顧問社労士によるハラスメント防止研修を行うとともに、職員の安全や健康を維持するため定期的に行う内部研修なども開催し、良好な労働環境の維持・増進を図った。

加えて、令和5年度中に施行されるインボイス制度と電子帳簿保存法の各種勉強会や説明会などに職員を参加させ、円滑な対応の準備を進めた。

・受講した研修等一覧

研修区分	月 日	研修先又は研修内容	参加者数
新採職員研修	4月5日 ～22日	内部講師による研修と市職員基礎研修を組み合わせた新規採用者研修（10講座）	3名
連絡会議	10月13日	緑の相談所連絡会議（県立明石公園）	1名
他都市視察等	4月14日 ～16日	奄美大島固有動植物・熱帯果樹園視察 展示用植物の収集	1名
講座・セミナー	6月13日 他2回	インボイス制度、電子帳簿保存法制度研修	2名
	6月29日 他2回	公益法人会計及び決算実務研修	2名
	10月26日	改正法人税法令説明会	1名
	10月27日	植物園協会技術者講習会（あわじグリーン館）	1名
	11月15日 12月8日	人権問題講演会	2名
	11月25日	動画編集・広報研修	1名
	11月30日	公園管理運営士更新研修	1名
	12月24日 3月13日	刈払機取扱作業安全衛生教育	2名
内部研修等	4月12日	ハラスメント防止研修会	25名
	11月28日	労働安全管理研修	約60名
	3月13日	職員健康管理研修	約60名

7 協会概要パンフレットの作成

対外向けの広報ツールや新規取引の際の法人案内ツール、職員採用時の事業概要ツールなど、多目的に使用するとともに、協会のブランディング戦略にも活用するため、新たに協会の案内パンフレットを作成した。

- ・仕様 フルカラー 12 ページ
- ・部数 300部



(協会概要パンフレット)

Ⅲ 理事会、評議員会の開催

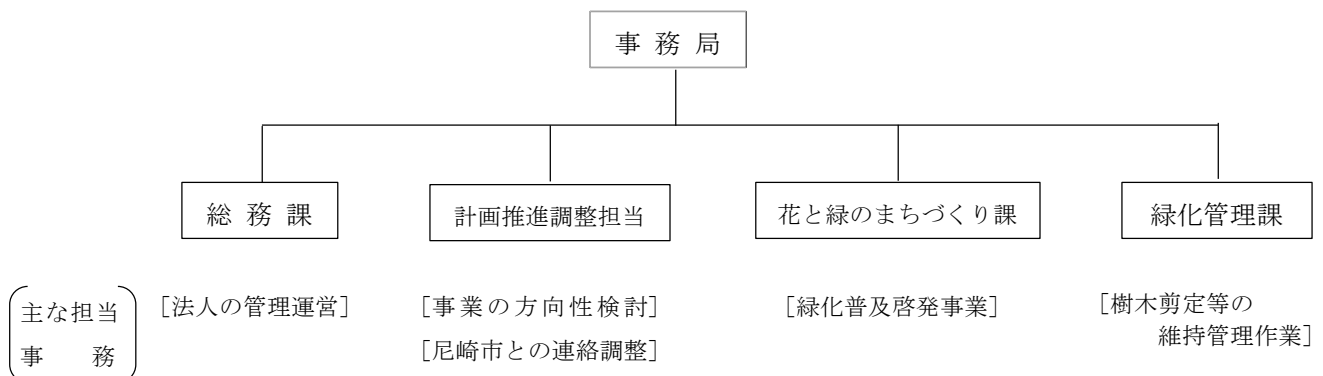
理事会・評議員会を定期的に開催し、事業計画・予算、事業報告・決算などの重要事項を審議・承認いただいた。

- ・理事会、評議員会の開催実績

会議名称	開催日	場所	議案等
第1回理事会	6月2日(木)	本部事務所会議室	3年度事業報告・決算他
定時評議員会	6月30日(木)	尼崎市総合文化センター	役員並びに評議員の選任 3年度事業報告・決算 定款の一部改正 他
第2回理事会	6月30日(木)	尼崎市総合文化センター	理事長、常務理事の選定
第1回臨時評議員会 (決議の省略によるみなし開催)	2月1日(水)	—	理事の選任
第3回理事会	3月29日(水)	本部事務所会議室	5年度事業計画・予算他

Ⅳ 4月1日付組織改正の実施

緑化事業を担う部署を、主に普及啓発を担当する「花と緑のまちづくり課」と、樹木剪定等の維持管理作業を担う「緑化管理課」の2課に整理し、「総務課」と「計画推進調整担当」を加えた4課体制とする組織改正を、4月1日付で行った。



V 新型コロナウイルス感染症への対応

3年目となる新型コロナウイルス対応については、感染力の強いオミクロン株（Ba. 5）により、夏場の一ヵ月程の間に10名以上の感染者と濃厚接触者が続発し、過去最大の感染状況となった。対象者には特別休暇を付与し、安心して療養に専念できる環境づくりに努めるとともに、引き続き職場での感染防止対策の徹底を図った。

また、3月13日より国においてマスク着用が、個人の主体的な判断に委ねられることを基本とする方針に改められたことから、当協会においての当面の間のマスク着用についても考え方を整理し、職員への周知を行った。